

科目名	臨床実習 2							年度	2026
英語科目名	Clinical training 2							学期	後期(通年)
学科・学年	柔道整復科 2年次	必/選	必※	時間数	45	単位数	1	種別※	実習
担当教員	宮本功三、青木伊之、後藤見弘、杉本知、加藤健太、秋田雄大、有山敦士		教員の実務経験		有	実務経験の職種		柔道整復師(接骨院にて勤務経験あり)	

【科目の目的】

柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学び、施術者としての責任と自覚を養うことを目的とする。

【科目の概要】

外部臨床実習施設において臨床実習指導者のもとで見学型の臨地実習を行います。

【到達目標】

医療人として必要な接遇を中心とした誘導、評価測定法の基礎を身につけそれを有効に利用し、患者さんに説明が出来ることを目標とする。共通症例では外傷のとらえ方を理解し他の疾患にも応用できるようにする。

【授業の注意点】

共通症例の考察時にはグループ内での積極的な議論が必要となる。また、様々な知識を駆使し状況証拠から傷病名、その治療方法、具体的な注意点などを導き出すため積極的な参加が必要となる。そのためグループ内での融和団結が必要でありその十分な準備を望む。

評価基準＝ルーブリック

ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力
到達目標 A	指導者の指示に適切にこたえることができる。	指導者の指示にこたえることができる。	指導者の指示が理解できる。	指導者の指示を理解することがやや不足している。	指導者の指示したことが理解できない。
到達目標 B	実習に際して目的意識を持って臨むことができる。	実習に際して目的意識を持って臨むことを努力している。	実習に際して目的意識を持つ必要性を理解はしている。	実習に際して目的意識を持って臨むことがやや不足している。	実習に際して目的意識を持って臨むことができない。
到達目標 C	施術道具及び施術機器の衛生的な管理の重要性を理解している。	施術道具及び施術機器の衛生的な管理について必要性は理解している。	施術道具及び施術機器の衛生管理に努めることができる。	施術道具及び施術機器の衛生管理について理解がやや不足している。	施術道具及び施術機器の衛生管理に努めることができない。
到達目標 D	施術の介助について完全に理解した上で実施することができる。	施術の介助について大体理解した上で実施することができる。	施術の介助について必要性は理解している。	施術の介助への理解がやや不足している。	施術の介助ができない。
到達目標 E	物理療法機器を患者に正しく装着できる。	物理療法機器を患者に大体装着できる。	物理療法機器を患者に装着する方法は理解している。	物理療法機器を患者に正しく装着できる方法がやや不足している。	物理療法機器を患者に正しく装着できない。

【教科書】

適宜レジュメ・資料を配布する。参考書・参考資料等は、授業中に指示する。

【参考資料】

【成績の評価方法・評価基準】

実習態度や出席状況と課題を総合的に評価する。

※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。

